

# 朝鮮史

## 卷二

歴

9289  
6

部  
門  
番  
號  
配  
置  
部

三篇 上古史

第一章	三國ノ分立
第二章	三國ノ中世
第三章	三國ノ争亂及ヒ新羅ノ隆興
第四章	隋唐ノ來侵
第五章	百濟高句麗ノ滅亡
第六章	駕洛任那及ヒ耽羅
第七章	支那及ヒ日本ノ關係
第八章	新羅ノ統一
第九章	新羅ノ衰亡
第十章	泰封及ヒ後百濟
第十一章	渤海

221.  
H392t2  
IIW

Kodak Gray Scale

C  
Y  
M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



221  
H392t2  
II



朝鮮史卷之二目錄

第三篇 上古史

第一章 三國ノ分立

第二章 三國ノ中世

第三章 三國ノ争亂及ビ新羅ノ隆興

第四章 隋唐ノ來侵

第五章 百濟高句麗ノ滅亡

第六章 駕洛任那及ビ耽羅

第七章 支那及ビ日本ノ關係

第八章 新羅ノ統一



第九章 新羅ノ衰亡

第十章 秦封及ビ後百濟

第十一章 渤海

第十二章 百制度

第十三章 教法文學及ビ技藝

第十四章 産業

第十五章 風俗

第一章 三國ノ分立

第二章 上古史

朝鮮史卷之二 目録

朝鮮史卷之二

北總 林 泰 輔 著

第三篇 上古史

第一章 三國ノ分立

漢朝鮮ノ地ヲ分チテ郡縣トナシ、ヨリ後幾クモナクシテ。

新羅高句麗百濟ノ三國並ビ起リテ鼎足ノ勢アリ。而シテ其

立ツコト最先ナル者ハ新羅ナリ。

新羅ハ本辰韓ノ地ナリ。是ヨリ先キ秦漢朝鮮ノ遺民東海ノ

濱ノ山谷ニ分居シテ六村トナル。是ヲ辰韓ノ六部トス。闕川

楊山、突山高城、蒼山、珍支、茂山大樹、金山、加利、明活、山高耶、是ナ

辰韓ノ六部

新羅



朴赫居世立ッ

居西干ト號シ  
國ヲ徐羅伐ト  
云フ

次々雄

リ。高墟ノ村長蘇伐公。一人ノ嬰兒ヲ養フ。稍長ジテ岐嶷ナリ。

六部ノ人立テ、君トナス。是ヲ朴赫居世ト云フ。舊說ニ赫居世初大卵ヨリ生

ト號シ。國ヲ徐羅伐ト云フ。居西干ハ方言ニシテ。王ト云フガ

如シ。闕英ヲ立テ、妃トス。賢行アリ。能ク内ヲ輔ク。時人之ヲ

二聖ト云フ。俱ニ六部ヲ巡撫シテ。農桑ヲ勸督シ。又城郭宮室

ヲ築キ。百姓安堵。門戸夜扃サズ。樂浪來リ侵シ。其有道ニ服シ

テ。兵ヲ引キテ退キ。卞韓國ヲ以テ來リ降り。東沃沮ノ如キハ。

南韓ニ聖人出ルアリト聞キテ。良馬ヲ獻ズルニ至ル。赫居世

薨シ。子南解立テテ。次々雄ト號シ。或ハ慈充ト稱ス。方言ニ巫

ヲ慈充ト云フ。蓋神トシテ之ヲ敬畏スルナリ。長女ヲ以テ昔

脫解脫解ハ。モト多婆那國ノ人ナリ。其國倭國ノ東北一千ニ妻ハ

ス。南解病篤シ。子儒理及ビ女婿脫解ニ謂テ曰ク。吾死シテ後。

朴昔ノ二姓。年長ヲ以テ位ヲ嗣ゲト。薨ズルニ及ビテ。儒理脫

解ガ德望アルヲ以テ之ヲ讓ル。脫解辞シテ曰ク。神器ハ庸人

ノ堪フル所ニ非ズ。吾聞ク聖智ノ人ハ齒多シト。因テ試ニ餅

ヲ以テ之ヲ噬マシムルニ。儒理齒理多シ。乃チ之ヲ立テ、尼

師今ト號ス。尼師今ハ齒理ナリ。是ヨリ後。實聖ニ至ル。儒理終ニ

臨ミテ臣僚ニ謂テ曰ク。脫解身國戚ニ聯リ。位輔臣ニ居リ。屢

功名ヲ著ス。朕ガ二子其才及バズ。且先君ノ命アリ。吾死スル

尼師今



昔氏王統ヲ承ク

儒理官制ヲ定ム

國號ヲ雞林ト改ム

ノ後。大位ニ即カシメヨト。脫解遂ニ位ニ即ク。昔氏はニ於テ始メテ其統ヲ承ケタリ。儒理ハ。國內ヲ巡リテ。窮民ヲ賑給シ。六部ノ名ヲ改メテ姓ヲ賜ヒ。楊山部ヲ梁部。姓ハ崔トシ。大樹部ヲ漸梁部。姓ハ孫トシ。于珍部ヲ本彼部。姓ハ鄭トシ。加利部ヲ漢祗部。姓ハ裴トシ。明活部ヲ習比部。姓ハ薛トス。官制ヲ定メ。隣國來歸スル者衆シ。脫解ノ時ニ當リテ。始メテ百濟ノ來侵アリト雖。其志ヲ逞ウスルヲ得ズ。九年。我紀元七百廿五年。國號ヲ雞林ト改ム。雞林ノ稱此ニ始ル。俗ニ鳴ク。城西ノ始林ニ。金櫃樹梢ニ掛リテ。白鷄其下。關智ト名ヅケ。始林ヲ改メテ雞林ト云ヒ。且國號トナス。關智ハ小兒ヲ云フナリ。婆娑ニ至リテ。精ヲ勵マシ。治ヲ爲シ。兵革ヲ鍊リ。城壘ヲ繕メ。民ニ農桑ヲ勸メ。老ヲ問ヒ。穀ヲ賜ヒ。田野多ク荒ル、時ハ。其吏ヲ黜ケ。水旱蝗災ニハ。其

高勾麗ノ始祖朱蒙立ツ

窮ヲ賑ヒ。專ラ恭儉ヲ務メテ。殷富ヲ致スヲ期ス。是ヲ以テ伽耶第四章ニ詳カナリ。德ニ懷キ。百濟和ヲ請ヒ。悉督江原道陟府。慶尙道山縣。ノ諸國モ。亦盡ク讐服セリ。再傳シテ逸聖ニ至リ。政事堂ヲ置キ。堤防ヲ修メ。田野ヲ闢キ。民間ノ金銀珠玉ヲ用フルコトヲ禁ジテ。專ラ先王ノ遺法ヲ行ヘリ。此ノ如ク。新羅ハ賢君相繼ギテ興リ。心ヲ政治ニ用ヒシカバ。國本益鞏固ナリキ。新羅赫居世ノ立チシヨリ後二十一年。我紀元六百二十四年。ニシテ。高勾麗ノ始祖朱蒙立ツ。高勾麗ハ。即古朝鮮ノ地ナリ。其北ニ國アリ。扶餘ト云フ。扶餘王金蛙ノ子。骨表奇偉。年甫メテ七歳ニシテ。自ラ弓矢ヲ作りテ之ヲ射ルニ。發シテ中ラザルナシ。扶餘



國ヲ高勾麗ト號シ高ナ氏トス

ノ俗善ク射ルヲ謂テ朱蒙ト云フ。故ニ之ニ名ヅク。朱蒙。又鄒牟ト書ス。

兄弟其材能ヲ忌ミテ。之ヲ殺サントス。朱蒙禍ヲ恐レテ東南ニ走リ。卒本扶餘平安道成川府。或云。卒本扶餘ハ。今ノ朝鮮ノ地ニ非ズシテ。鴨綠江ノ西ニアルベシト。卒本又忽本ニ作ル。

ニ至リ。沸流水上ニ都ヲ定メ。國ヲ高勾麗ト號シ。高ヲ以テ氏トス。蓋扶餘人種ノ南ニ遷ルコトハ。已ニ朱蒙以前ニ在リ。卒本扶餘ノ如キ。亦其一ナリ。然レドモ朱蒙ノ國ヲ立ルニ及ビテ。四方來リ附ク者頗多シ。朱蒙沸流水ニ榮葉ノ流レ下ルヲ見テ。人ノ上流ニ居ルヲ知り。往テ之ヲ尋ヌルニ。果シテ國アリ。沸流ト云フ。其王松讓ヲ見テ藝ヲ較ベ。遂ニ之ヲ降セリ。又城郭宮室ヲ營ミ。靺鞨滿洲吉林省。及盛京省東境。ノ侵サンコトヲ患ヒテ。之

薩水以南ハ漢ニ屬ス

ヲ攘斥シ。荇人其地未詳。蓋平安道ノ東境。若クハ咸鏡道ノ南境ニアルベシ。北沃沮ヲ伐テ之ヲ滅ボス。瑠璃王ハ鮮卑內蒙古科爾沁南境。ヲ降シ。梁貊其地未詳。蓋平安道ノ南境。

ルベシ。アヲ滅ボシ。漢ノ王莽。高勾麗ノ兵ヲ發シテ。匈奴ヲ伐タシムレドモ。其命ニ逆ヒシカバ。漢更ニ嚴尤ヲ遣シテ來リ擊タシム。王尙從ハズ。却リテ漢ノ邊地ヲ侵スコト益甚シ。太武神王ニ至リテ。扶餘ト戰ヒテ。其王ヲ殺シ。蓋馬其地未詳。蓋鴨綠江ノ西北ニ在ル

シ。勾茶其地未詳。樂浪ヲ取リテ。疆域ヲ拓キ。勢尤強盛ナリシガ其末ニ至リテ。漢ノ光武。兵ヲ遣シ。海ヲ渡リテ。樂浪ヲ伐チ。其地ヲ取リテ郡縣トシ。薩水平安道清川江。以南ハ。漢ニ屬シタリ。再傳シテ慕本王ニ至リ。暴戾不仁ニシテ。國事ヲ恤ヘズ。居常坐スレ



王者禪位ノ始

バ必ズ人ニ藉リ。臥ス時ハ之ヲ枕ニシ。人動搖スルコトアレ  
 バ。輒之ヲ殺シ。臣諫ムル者アレバ之ヲ射ル。其臣杜魯。禍ノ已  
 ニ及バンコトヲ慮リテ。遂ニ之ヲ弑ス。太子翊。不肖ニシテ社  
 稷ヲ主ルニ足ラズ。國人瑠理王ノ孫宮ヲ迎ヘテ立ツ。之ヲ太  
 祖王ト號ス。幼ニシテ岐嶷ナリ。賢良ヲ舉ゲ。鰥寡ヲ問ヒ。時ニ  
 出デ、東沃沮、藻那其地未詳。朱那同上等ヲ略シ。又屢滅、貊、馬韓、鮮卑  
 ト與ニ漢ヲ侵シ。玄菟、遼東ヲ攻メ。其勢頗盛ナリシガ。深ク弟  
 遂成ヲ信任シテ。威福ヲ擅ニセシメ。遂成田獵ニ荒ミ。陰ニ異  
 心ヲ懷キシカドモ。王ハ在位九十四年ノ久シキヲ經テ。老耄  
 シテ察スルコト能ハズ。遂ニ位ヲ遂成ニ傳フ。王者ノ禪位此

百濟

溫祚ハ慰禮城ニ居ル

ニ始ル。

百濟王溫祚ハ。高朱蒙ノ子ナリ。初、朱蒙卒本扶餘ニ至リ。其王  
 ノ女ヲ妻トシ。二子ヲ生ム。長ヲ沸流ト曰ヒ。次ヲ溫祚ト曰フ。  
 朱蒙北扶餘ニアリシ時ノ子類利ヲ立テ、太子ト爲スニ及  
 ビテ。二子相容レザルヲ恐レ。烏干馬黎等十人ト南行シテ。沸  
 流ハ彌鄒忽京畿道仁川府ニ居リ。溫祚ハ河南ノ慰禮城忠清道稷山縣ニ居  
 ル。馬韓王東北百里ノ地ヲ割キテ之ヲ與フ。沸流彌鄒ノ土地  
 卑濕ニシテ安居スルヲ得ズ。慰禮ハ都邑既ニ定リ。人民安堵  
 セルヲ見テ。慙恚シテ死セリ。故ニ其臣民皆慰禮ニ歸シテ益  
 盛ナリ。乃チ國ヲ百濟ト號シ。系高勾麗ト同ク扶餘ニ出ヅル



溫祚王位ニ即

馬韓ヲ亡ボス

都ヲ漢山ニ徙

ヲ以テ扶餘ヲ氏トス。其位ニ即クヤ。高勾麗ヨリ後ル、コト  
 又二十年ニシテ。我紀元六百四十三年ナリ。百濟ハ樂浪靺鞨  
靺鞨ハ高勾麗ノ北ニアリ。而ルニ屢百濟新羅ヲ侵スコト。屢境域ヲ擾  
アリシモノハ。其屬地三國ノ間ニ介在セシモノナルベシト。 屢境域ヲ擾  
 スヲ以テ。城ヲ築キ柵ヲ設ケテ。之ヲ防ギシカドモ。侵暴尙已  
 マズ。乃チ地ヲ漢水ノ南ニトシ。慰禮ノ民戸ヲ移シテ之ニ實  
 シ。城闕ヲ立テ、都ヲ漢山京畿道ニ徙シ。使ヲ馬韓ニ遣シテ。  
 疆域ヲ定メ。北ハ浪河黃海道平ニ至リ。南ハ熊川忠清道ニ限  
 リ。西ハ大海ヲ窮メ。東ハ走壤ヲ極ム。又部落ヲ巡撫シテ。農ヲ  
 勸メ。頗心ヲ政事ニ用フ。二十七年。馬韓王ノ微弱ナルニ乘ジ  
 テ襲撃シ。終ニ之ヲ亡ボセリ。其後多婁王已婁王ヲ歷テ。蓋婁

王ニ至ル迄ハ。事蹟茫昧ニシテ。記スルニ足ルコトナシ。  
 抑百濟ハ。内旱魃アリテ。飢民高勾麗ニ流亡シ。外靺鞨樂浪ノ  
 侵寇アリテ。戰鬪連年息マズ。彼ノ新羅ノ德厚ク化洽子キ者  
 ニ比スレバ。其國勢霄壤ノ差アリ。高勾麗ハ更ニ強盛ニシテ。  
 頗四隣ヲ并吞セリ。是時ニ當リテ。三國皆創業ニ屬シ。各疆土  
 ヲ开拓スト雖。互ニ侵寇爭奪シテ。國力ヲ疲弊セシムルニ至  
 ラズ。唯百濟多婁王ノ時。數次新羅ノ邊境ヲ侵擾セシニ過ギ  
 ザルノミ。

第二章 三國ノ中世

新羅ノ阿達羅薨ズ。國人脫解ノ孫伐休ヲ立テ、王トス。王聰

新羅



金氏始メテ位ヲ嗣ク

明ニシテ。ヨク人ノ邪正ヲ知ル。世之ヲ聖ト云フ。州郡ヲ巡リ。風俗ヲ察ス。助賁ニ至リテ。甘文慶尙道開寧縣ヲ討チ破リ。骨伐慶尙道永川郡ニノ主モ。衆ヲ率井テ來リ降ル。王皆其地ヲ以テ郡縣トス。沾解ハ沙梁伐慶尙道尙州ヲ滅ボシ始メテ政ヲ南堂ニ聽ク。其薨ズルヤ嗣ナシ。國人助賁ノ壻金味鄒ヲ立ツ。我紀元九百二十一年。鄒ハ金闕智ノ裔孫ナリ。是ニ於テ。金氏始メテ位ヲ嗣ギ。是ヨリ後。王統久ク金氏ニ歸ス。王ハ親テ政刑ノ得失ヲ問ヒ。貧窮ヲ賑恤シ。百姓ノ疾苦ヲ巡問シ。臣僚宮室ヲ改作セシコトヲ請ヒドモ。民ヲ勞スルコトヲ重ンジテ從ハズ。儒禮基臨ハ。皆助賁ノ胤ヲ以テ位ヲ嗣グ。奈解ノ孫訖解之ニ繼ギテ立チシ

中世ノ君ハ深ク心ヲ農事ニ用フ

百濟

古爾王官職服色等ノ制度ヲ定ム

高勾麗

ガ。其薨ズルヤ。昔氏ノ統ハ絶エタリ。大抵新羅中世ノ君ハ。深ク心ヲ農事ニ用ヒ。務メテ其妨害ヲ除カザルモノ鮮シ。其國力ヲ養フコトヲ得ルハ偶然ニ非ルナリ。立代百濟百濟ハ。肖古王ヨリ以後ハ。或ハ新羅ヲ侵シ。或ハ靺鞨ヲ襲ヒテ。專ラ戰鬪ニ從事シ。古爾王ノ如キハ。頗田獵ニ耽リシガ。又官職服色等ノ制度ヲモ定メタリ。而ルニ責稽王ハ。貂兵ノ爲メニ害セラレ。汾西王ハ。樂浪太守ノ刺客ニ殺サレ。比流王ノ時ニハ。飢饉荐リニ至リテ。民生ヲ聊セズ。契王近肖古王ニ至リテモ。常ニ安靜ノ日アルコトナシ。國高勾麗高勾麗次大王遂成ノ立ツヤ。右輔高福章及ビ太祖王ノ子ヲ



殺シ。頗兇逆ナリ。明臨答夫民ノ忍ビザルニ因リテ之ヲ弑ス。  
 左輔菸支留。群臣ト議シテ。王ノ弟伯固ヲ迎ヘテ立ツ。之ヲ新  
 大王ト曰フ。次大王ハ年七十六ニシテ位ニ即キ。新大王ハ七  
 十七ニシテ位ニ即ク。王立ツ。答夫ヲ以テ國相トス。王ノ子故  
 國川王ハ。處士乙巴素ヲ聘シテ國相トシ。大臣宗戚ノ疾ムヲ  
 モ顧ミズ。委スルニ政事ヲ以テシ。且其擧グル者晏留ヲ賞セ  
 シガ如キハ。尤希世ノ事ナリトス。又田獵ニ因リテ。民ノ窮ス  
 ルヲ見テ。其衣食ヲ給シ。遂ニ賑貸ノ法ヲ立テ。毎歲三月ヨリ  
七月ニ至リ。官  
穀ヲ出シ。家口ノ多少ニ稱ヒテ。百姓  
賑貸シ。冬月ニ至リテ之ヲ還サシム。頗英明ノ主ナリシガ。  
 其薨ズルヤ。王后于氏秘シテ喪ヲ發セズ。王ノ弟發岐ノ第二

賑貸ノ法ヲ立  
ツ

穀ヲ出シ。家口ノ多少ニ稱ヒテ。百姓賑貸シ。冬月ニ至リテ之ヲ還サシム。

百物ヲ給ス

往キ。其位ヲ嗣ガンコトヲ勸ム。發岐從ハズ。又其弟延優ノ家  
 ニ奔ル。延優迎ヘ入レテ之ニ飲マシム。后遂ニ延優ガ手ヲ執  
 ヘテ宮ニ入レ。遺命ヲ矯メテ之ヲ立ツ。即チ山上王ナリ。發岐  
 師ヲ遼東ノ太守公孫度ニ請ヒ延優ヲ討ズ。克タズシテ死セ  
 リ。王亦于氏ヲ立テ、后トス。其淫逆是ニ至レリ。而シテ乙巴  
 素上相ノ位ニ居リシト雖。默然トシテ矯正スル所ナシ。東川  
 王ハ魏ト戰ヒ大ニ敗レ。城ヲ平壤ニ築キテ都ヲ移セリ。然レ  
 ドモ其薨ズルニ及ビテ。國人德ニ懷キ。哀傷セザルナク。近臣  
 自殺シテ殉スル者甚ダ多シ。再傳シテ西川王ニ至リ。肅慎滿洲  
 省。吉林來リ寇ス。王其弟達賈ヲシテ之ヲ伐タシメ。酋長ヲ殺ス。

東川王都ヲ平  
壤ニ移ス



因テ達賈ヲ封ジテ安國君トシ。諸部震懾セリ。子烽上王立チ  
テ。叔父達固及ビ弟咄固ヲ殺ス。時ニ年穀登ラズ。黎民所ヲ失  
フヲモ顧ミズ。大ニ宮室ヲ修メ。人民役ニ困ミテ流亡ス。群臣  
諫レドモ聽カズ。國相倉助利之ヲ廢ス。王免レザルコトヲ知  
リ。自ラ經レテ死ス。初咄固ノ殺サル、ヤ。其子乙弗害ヲ畏レ  
テ遁逃ス。助利之ヲ民間ニ迎ヘテ立ツ。是ヲ美川王トス。王薨  
ジテ故國原王位ヲ繼グニ至リテハ。邊境益多事ニシテ。爭亂  
常ニ息マザリキ。

高句麗始メテ  
百濟ヲ侵ス

第三章 三國ノ争亂及ビ新羅ノ隆興  
高句麗故國原王ノ末我紀元一千九百至リテ。始メテ百濟ヲ侵

シ。百濟ノ近肖古王モ。亦精兵ヲ出シテ之ト戰ヒ。故國原王終  
ニ流矢ニ中リテ薨ジタリ。是ヨリ後。兩國怨ヲ結ブコト甚ク。  
互ニ兵ヲ出シテ侵伐シ。廣開土王ハ。躬ラ水軍ヲ帥井テ。百濟  
ノ諸城ヲ攻メ陷ル。百濟ノ阿花王。大ニ兵馬ヲ徵シテ之ヲ伐  
タント欲スレドモ。民之ヲ苦ミテ。多ク新羅ニ奔リシニヨリ  
テ果サマリキ。是ヨリ五十餘年間。兩國ノ戰爭ハ止ミタレド  
モ。其怨ハ尙解ケズシテ。百濟ノ盖鹵王ハ。使ヲ魏ニ遣シテ。其  
師ヲ出シテ高句麗ヲ伐ンコトヲ乞ヒタリシガ。魏ハ從ハザ  
リキ。又高句麗ノ長壽王ハ。浮屠道琳ヲシテ。百濟ニ往キ。其王  
ニ勸メテ。宮室樓閣ヲ壯麗ニシ。妄ニ不急ノ土木ヲ興サシメ。



百濟文周王都  
ヲ熊津ニ徙ス

倉庾虚ク人民窮シ。國勢甚ダ危キニ及ビテ。自ラ將トシテ之ヲ攻メ。七日ニシテ其城ヲ拔キ。王ヲ縛シテ之ヲ殺セリ。盖鹵王ノ子文周立チテ都ヲ熊津忠清道公州ニ徙ス。其臣解仇。權ヲ擅ニシテ法ヲ亂リ。王ノ出獵ニ因リテ之ヲ弑セリ。子三斤立ツ。眞老ニ命ジテ解仇ヲ殺ス。東城王ニ及ビテ。益微弱ニシテ。兩國ノ兵爭モ亦絶エタリシガ。一タビ新羅ヲ救ヒテ高勾麗ト戰ヒシヨリ。文咨王亦來リ侵セリ。然レドモ王ハ臨流閣ヲ起シ。又池ヲ穿チ圃ヲ置キ。宮門ヲ閉テ諫者ヲ拒ギシヲ以テ。終ニ其臣芍加ノ爲メニ弑セラレ。子武寧立チテ。芍加ヲ討チテ之ヲ誅セリ。是ヨリ聖王ノ時ニ至リテ。高勾麗ノ文咨、安藏、陽原

ノ諸王ト戰ヒシガ。聖王新羅ト兵ヲ合セテ高勾麗ヲ伐タンコトヲ謀レドモ。新羅ノ眞興王從ハズ。反リテ高勾麗ニ通ゼシカバ。聖王怒リテ新羅ヲ侵シ。大ニ敗レテ終ニ擊殺セラレ。匹馬返ル者ナカリキ。

新羅ハ。脫解ノ時。屢百濟多婁王ノ爲メニ侵サレ。其後伐休ヨリ味鄒ノ時ニ至リテモ邊境ノ爭アリシガ。其高勾麗ニ於ルハ。大抵好ヲ結ビテ。奈勿ハ質子實聖ヲ送り。高勾麗ノ廣開土王ハ。又師ヲ出シテ日本ノ兵ヲ新羅ニ擊チテ之ヲ救ヒタリ。其後實聖還リテ王トナリ。奈勿ノ已ヲ外國ニ質トスルヲ怨ミ。其子訥祗ヲ殺シテ怨ヲ報ゼントセシガ。反リテ訥祗ノ爲



訥祇麻立干ト  
號ス

メニ弑セラル。訥祇自立シテ麻立干ト號ス。麻立干ハ楸ニシ  
テ位ヲ表スルノ稱ナリ。此時新羅ハ高勾麗ノ邊將ヲ殺シ。又  
百濟ヲ救ヒシヨリ。其好ヲ失ヒ。炤智ノ時ニ至リテ。高勾麗ノ  
長壽王文咨王。屢北邊ヲ侵シ、カバ。新羅ハ百濟ト合シテ之  
ヲ破リ。百濟亦高勾麗ノ寇アレバ。新羅之ヲ救ヒタリ。然レド  
モ眞興王一タビ百濟聖王ノ請ニ從ハザリシヨリ。兩國ノ交  
又大ニ破レ。眞平善德ノ時ニ至リテモ。戰鬪常ニ已マザリキ。  
蓋當時三國互ニ干戈ヲ交ヘテ。許多ノ民命ヲ傷シ。許多ノ國  
力ヲ費スト雖。率疆域ノ爭奪ニシテ。其戰ノ是非曲直ハ。必シ  
モ論ズルニ足ラザルナリ。

新羅ノ文化ハ  
二國ノ上ニ出  
ヅ

新羅國號ヲ定  
メ王ト稱シ證  
ヲ立ツ

三國ノ爭亂既ニ此ノ如シ。然ルニ新羅ハ其間ニ在リト雖。徒  
ニ力ヲ戰鬪ニ費スノミニ非ズシテ。又頗心ヲ内治ニ用ヒタ  
レバ。文化ノ進歩ハ。迥ニ二國ノ上ニ出デタリ。抑新羅ハ始祖  
ヨリ以來。或ハ斯羅ト稱シ。或ハ斯盧ト云ヒ。國名未ダ定マラ  
ズ。又居西干、次次雄、尼師今、麻立干等ノ稱ヲ用ヒシコト。凡二  
十餘代ナリシガ。智大路ニ至リテ。新羅國王ト稱シ。法度ヲ制  
シ。州郡縣ヲ定メ。其薨ズルニ及ビテ。諡シテ智證ト曰フ。國號  
ヲ定メ王ト稱シ。諡ヲ立ル。皆此ニ始ル。我紀元一千法興王ハ  
律令ヲ頒チ。官制ヲ定メ。年號ヲ稱シ。眞興王之ニ紹ギ。百般ノ  
制度觀ルベキ者多シ。眞平王ノ時ニハ。官制益備ハリテ。綱紀



女子王統ヲ承  
タルノ始

愈整フ。王薨ジテ善德眞德ノ二女主。相繼ギテ位ニ即ク。善德ハ眞平王ノ長女ニシテ。王嗣ナキヲ以テ立ツ。是ヲ女子王統ヲ承タルノ始トス。我紀元一千二百九十二年。眞德モ亦眞平王ノ母弟國飯ノ女ナリ。是時屢百濟ノ攻撃ニ遭フト雖。未ダ嘗テ挫折セズ。武烈王ノ立ニ及ビテ。國運益隆盛ニ趨ケリ。蓋眞平王以來。使ヲ隋唐ニ遣シテ其懽心ヲ結ビ。高勾麗百濟ノ侵凌スルヲ患ヒテ頻ニ救援ヲ乞フ。是亦隋唐ノ兵ヲ二國ニ用フルコトヲ誘導スル所以ナルベシ。

### 第四章 隋唐ノ來侵

隋ノ文帝ノ時ニ當リテ。高勾麗ノ嬰陽王。靺鞨ノ衆ヲ率井テ

隋煬帝高勾麗  
ヲ伐ツ

遼西滿洲盛京省西境。此時高勾麗ヲ侵ス。文帝大ニ怒リ。漢王

諒等ヲシテ之ヲ伐タシム。偶水潦ニ値ヒ餽轉繼ガズ。又疾疫

アリ。遂ニ師ヲ還ス。王モ亦懼レテ罪ヲ謝シ之ト和ス。二十三

年隋大業八年。至リ。文帝ノ子煬帝。大ニ兵士ヲ發シ。親ラ六師ヲ

摠ベ。二十四軍ニ命ジ。左右ニ分テ。進ミテ遼水ニ至ル。麗兵水

ヲ阻デ、守リ。濟ルコトヲ得ズ。乃チ浮橋ヲ作リテ渡リ。遼東

城滿洲盛京州。ヲ圍ム。諸軍俱ニ鴨綠水ノ西ニ會ス。嬰陽王、大臣

乙支文德ヲ遣シテ其營ニ詣リテ詐リテ降ラシメ。實ハ虛實

ヲ觀ント欲ス。右翊衛大將軍于仲文之ヲ執ヘントシテ果サ

ズ。文德鴨綠水ヲ濟リテ歸ル。仲文左翊衛大將軍宇文述ト之



隋軍潰走ス

ヲ追フ。文德詐リ走リテ之ヲ誘ク。仲文等遂ニ進ミテ薩水ヲ  
濟リ。平壤ヲ去ルコト三十里ニシテ營ヲ爲ス。文德復タ詐リ  
テ述ニ降ル。述等亦平壤ノ城險固ニシテ。猝カニ拔キ難キヲ  
度リ。遂ニ其詐ニ因リテ還ル。文德乃チ軍ヲ出シテ鈔擊シ。薩  
水ニ至リ。隋軍半濟ルニ及ビテ。後ヨリ之ヲ擊ツ。諸軍俱ニ潰  
エテ禁止スベカラズ。一日一夜ニ鴨綠水ニ至ル。行クコト四  
百五十里。是ヨリ先キ。來護兒ハ別ニ江淮ノ水軍ヲ帥。并海ニ  
浮ビテ浪水江大ヨリ入り。平壤ニ造リ。高勾麗ノ爲メニ破ラ  
レ。退キテ海浦ニ屯セシガ。述等ガ敗ル、ヲ聞キテ。亦師ヲ班  
ス。初隋軍遼ニ至ル。凡三十萬五千ナリト云フ。然ルニ其還リ

楊帝再タビ高  
勾麗ヲ攻ム

テ遼東城ニ至ルニ及ビテ。唯二千七百人ノミ。資儲器械モ皆  
失亡蕩盡セリ。煬帝大ニ怒リテ。述等ヲ鎖繫シテ引キ還ル。  
是時百濟ノ武王ハ。使ヲ隋ニ遣シテ。高勾麗ヲ討タンコトヲ  
請フ。煬帝之ヲシテ高勾麗ノ動靜ヲ覘ハシム。武王潛カニ高  
勾麗ト通ジ。隋軍遼水ヲ渡ルニ及ビテ。兵ヲ境上ニ嚴ニシテ  
隋ヲ助クト聲言シ。實ハ兩端ヲ持シテ觀望セリ。

明年ニ至リ。煬帝再ビ師ヲ興シテ遼東城ヲ攻メ。百方力ヲ盡  
セドモ。二十餘日ニシテ拔ケズ。會楊玄感黎陽支那河南省  
衛輝府濬縣ニ

反ス。報遼東ニ至ル。煬帝遂ニ軍ヲ引キテ還ル。其後又之ヲ伐  
タントセシガ。隋モ亦已ニ亂レテ。其事終ニ止ム。



唐太宗高句麗ヲ伐ツ

嬰陽王薨ジテ異母弟榮留王立ツ。是時隋亡ビテ唐之ニ代リ  
 シニ因リテ。王使ヲ遣シテ和親ヲ結ビタリシガ。王ノ末ニ至  
 リテ。唐ノ使陳大德高句麗ヨリ還リ。悉ク其虛實ヲ陳ブ。太宗  
 陰ニ之ヲ取ルノ心アリ。已ニシテ泉蓋蘇文王ヲ弑シテ。王ノ  
 姪臧ヲ立ツ。是ヲ寶藏王トス。蓋蘇文自ラ莫離支官名ト爲リ。專  
 ラ國事ヲ擅ニシ。唐使ヲ遣シ新羅ト和セシム。蓋蘇文之ヲ囚  
 フ。寶藏王三年。唐貞觀十八年。唐太宗自ラ將トシテ諸軍ヲ指揮シ。新  
 羅、百濟、奚內蒙古東南境、契丹支那直隸省東境ニ命ジテ之ヲ擊タシム。遼東  
 道行軍大總管李世勣、副大總管江夏王道宗。進ミテ遼水ヲ渡  
 リ。蓋牟滿洲盛京省蓋平縣ヲ拔キテ蓋州トス。平壤道行軍大總管張亮

太宗安市ヲ拔クコト能ハス

ハ。舟師ヲ率井テ。東萊支那山東省萊州ヨリ海ヲ濟リテ。卑沙城滿洲盛京省  
 ニ海城縣ヲ襲ヒテ之ヲ陷ル。太宗亦自ラ進ミテ遼東白巖滿洲盛京省遼陽  
 州盛京省遼陽ニ二城ヲ拔キテ州ト爲シ。更ニ轉ジテ安市滿洲盛京省  
 在蓋平縣ヲ攻ム。北部靺鞨高延壽。南部靺鞨高惠真之ヲ救ヒ。  
 其軍及ビ靺鞨ノ衆ヲ合セテ陣ヲ爲ス。長サ四十里。太宗之ヲ  
 望ミテ懼ル、色アリ。道宗直ニ平壤ヲ撞カンコトヲ請フ。太  
 宗應ゼズシテ進ミ攻ム。延壽惠真遂ニ降ル。太宗乃チ其居ル  
 所ノ山ヲ名ヅケテ駐蹕山ト云フ。盛京省遼陽州首山。其獲ル所牛馬各  
 五萬匹。明光鎧萬領。他ノ器械モ之ニ稱ヘリト云フ。亦其國力  
 ノ盛ナルヲ見ルベシ。而シテ安市ノ城主或曰。名陽春。善ク守リ。唐



太宗師ヲ班ス

人力ヲ盡シテ之ヲ攻ムレドモ拔クコト能ハズ。太宗遼左早ク寒クシテ草枯レ水凍リ。士馬久ク留リ難ク。且糧食將ニ盡キントスルヲ以テ。遂ニ師ヲ班ス。其初出ル時。士十萬、馬萬匹ナリシガ。還ルニ及ビテ。僅ニ千餘人。馬亦死スルコト十二八九ナリキ。而シテ蓋蘇文ノ驕恣益甚シ。唐又數偏師ヲ遣シ。疆域ヲ侵軼シテ奔命ニ疲レシメント欲シ。萊州支那山東ヨリ省。海ヲ渡リテ之ヲ伐タシム。更ニ劍南道支那四川省。命ジテ。木ヲ伐リ船艦ヲ造ラシメ。大舉ノ計ヲ爲セリ。蓋前役力ヲ陸路ニ專ラニシテ其志ヲ得ザリシヲ以テナリ。然レドモ太宗ノ崩ズルニ會シテ遂ニ果サマリキ。

第五章 百濟高勾麗ノ滅亡

百濟ノ新羅ヲ侵掠スルコト虚歲ナシ

百濟ハ威徳王惠王法王モ皆徳政ノ人心ヲ維持スルコトナカリシニ。武王ニ至リテ強ク恃ミ驕慢ニシテ。新羅ヲ侵掠スルコト。殆ド虚歲ナク。唐使ヲ遣シ之ヲ諭シテ兵ヲ戢メシムト雖從ハズ。而シテ盤樂怠傲。其欲ヲ逞クシ。義慈王之ニ繼ギテ。驕奢淫佚。國事ヲ恤ヘズ。諫臣ヲ殺シ。兵ヲ出シテ新羅ノ邊境ヲ擾スコト。其幾クナルヲ知ラズ。又高勾麗ニ結ビテ。新羅唐ニ朝貢スルノ路ヲ絶ツ。新羅ノ武烈王。金仁問ヲ唐ニ遣シ。百濟ヲ伐タンコトヲ請フ。是ニ於テ義慈王廿年唐顯慶五年。唐ノ高宗。蘇定方ヲ行軍大總管トシ。水陸ノ軍ヲ帥井テ。萊州ヨリ

唐高宗百濟ヲ擊ツ



海ヲ濟リテ之ヲ擊タシム。武烈王又太子法敏、大將軍金庾信等ヲシテ之ガ聲援ヲ爲サシム。百濟ノ將軍階伯、克タズシテ死ス。唐及ビ新羅ノ兵、都城ヲ圍ム。百濟衆ヲ悉シテ之ヲ拒ゲドモ、唐ノ兵勝ニ乗ジテ益進ム。王遂ニ定方ニ詣リテ降ル。定方、王以下八十餘人ヲ執ヘテ京師ニ送リ、其國ヲ平グ。凡五部、三十七郡、二百城、七十六萬戸アリト云フ。唐其地ヲ分チテ五都督府熊津、馬韓、東明、金漣、德安。ヲ置キ、各州縣ヲ統ベ、渠長ヲ擢ンデ、都督刺史縣令トシ、劉仁願ヲシテ之ヲ理メシム。百濟是ニ於テ亡ブ。始祖溫祚王ヨリ是ニ至リテ、凡三十王六百七十八年ニシテ、我紀元一千三百二十年ナリ。

百濟亡ア

福信等兵ヲ起ス  
王子ヲ日本ニ迎フ

其後宗室福信等、浮屠道琛ト周留城全羅道全州ニ在リ。ニ據リテ兵ヲ起ス。是時王子扶餘豐ハ日本ニ質タリ、迎ヘ立テ、王トシ。唐將劉仁願ヲ熊津城ニ圍ム。福信權ヲ專ニシ、豐ト寢ク相猜フ。豐之ヲ斬リ、使ヲ高句麗及ビ日本ニ遣シテ師ヲ乞ヒ、唐ノ兵ヲ拒グ。然レドモ新羅ト唐ト之ヲ攻ムルコト益急ナリ。豐遂ニ逃レテ高句麗ニ奔ル。劉仁軌仁願ニ代リテヨク其後ヲ治ム。唐又百濟王ノ子隆ヲシテ熊津ノ都督トシ、仁軌及ビ新羅ト同ク誓ハシム。然レドモ其地稍ク新羅ノ爲メニ并セラレテ、百濟遂ニ絶ユ。

唐ノ高宗、既ニ百濟ヲ滅ボシ、高句麗寶藏王廿年唐龍朔三年。又契



唐高宗高句麗ヲ伐ッ

寶藏王唐ニ降リ高句麗亡ア

苾何力蘇定方等ヲ行軍大總管トシ。道ヲ分チテ高句麗ヲ伐  
タシム。新羅ノ兵之ニ會シ。軍糧ヲ平壤ニ輸ス。然レドモ風雪  
寒洩シテ人馬疲憊スルヲ以テ。唐兵ヲ引キテ還ル。二十五年  
唐乾封元年。泉蓋蘇文死シ。其子男生代リテ莫離支ト爲ル。弟男建  
之ト權ヲ爭ヒ。男生遂ニ國內城平安道義州。或ハ云ク。鴨江ノ北ニアルベシト。ニ據  
リテ唐ニ降ル。唐之ニ官職ヲ授ケテ鄉導ト爲シ。又李勣ヲ以  
テ行軍大總管トシ。新羅王及ビ劉仁願等ニ命ジテ。勣ガ節度  
ヲ受ケシム。勣進ミテ扶餘、大行滿洲盛京省ニアリ。ノ諸城ヲ拔キ。諸道  
ノ軍。皆會シテ鴨綠ノ柵ニ至ル。麗人拒ギ戰フ。勣之ヲ敗リ。遂  
ニ平壤城ヲ圍ム。コト月餘。王力支ヘズ。男産ヲ遣シテ降ル。勣

之ヲ以テ還ル。唐乃チ王ヲ赦シ。男建ヲ黔州支那四川省酉陽州彭水縣。ニ  
流シ。安東都護府ヲ平壤ニ置キ。薛仁貴ヲ以テ都護トシ。五部、  
百七十六城、六十九萬餘戸ヲ分チテ。九都督府四十二州百縣  
トシ。都護府之ヲ統ベ。高句麗將帥ノ功アル者ヲ擢ンデ、都  
督刺史縣令トシテ。之ヲ治ム。始祖東明王ヨリ是ニ至リテ。凡  
二十八王七百〇五年ニシテ。我紀元一千三百二十八年ナリ。  
其後唐高臧ニ開府儀同三司遼東都督ヲ授ケ朝鮮王ニ封ジ。  
又其子孫ヲモ封ジタリシガ。部民漸ク分散シテ。高氏ハ遂ニ  
亡ビタリ。

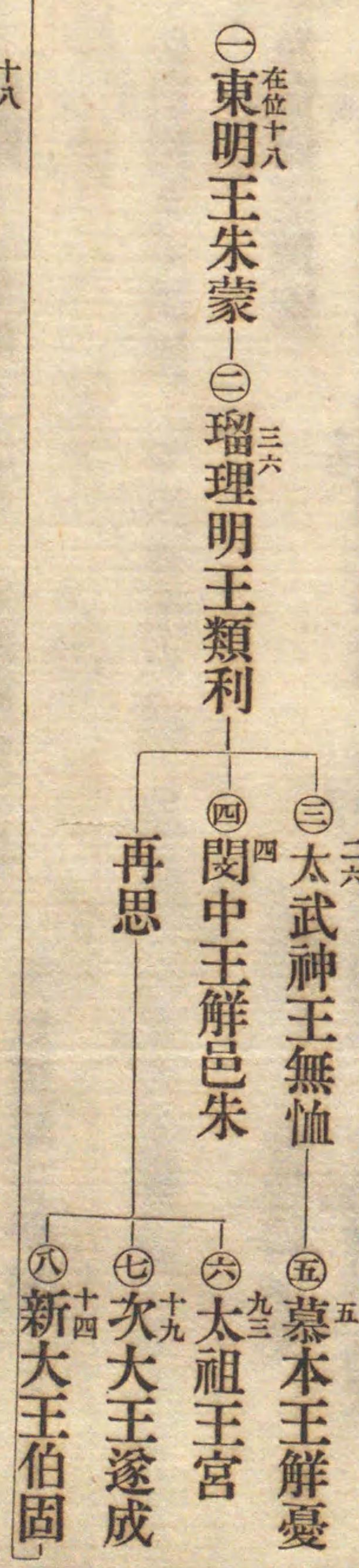
蓋高句麗ハ。國力强盛ナラザルニ非ズ。故ニ蓋蘇文ノ暴戾ナ



ルモ。上下一致スル時ハ。唐ノ太宗ノ神武ト雖。之ヲ滅ボスコト能ハズ。其死スルニ及ビテヤ。骨肉相謀リ。衆情携貳シテ。遂ニ一老將ノ爲メニ亡ボサル。然レドモ遠ク其原因ヲ尋ヌレバ。驕侈侮慢。好ヲ鄰國ニ失フコト一日ニ非ズ。亦其滅亡ヲ促ス所以ナリ

新羅		高句麗		百濟		三國鼎立ノトキ。國王ノ其臣ニ弑セラレ。或ハ敵國ノ爲メニ殺サレタルモノ。上ニ掲ゲタルカ如シ。而シテ新羅ノ惠恭王以下ノ四王ハ。皆一統ノ後ニ在	
殺サレタル君ノ名	殺シタル人ノ名	同上	同上	同上	同上	同上	同上
實聖	訥祗	慕本王	杜魯	責稽王	貊兵	ハ敵國ノ爲メニ殺サレタルモノ。上ニ掲ゲタルカ如シ。而シテ新羅ノ惠恭王以下ノ四王ハ。皆一統ノ後ニ在	
次大王	明臨答夫	汾西王	樂浪刺客	辰斯王	國人	タカカ如シ。而シテ新羅ノ惠恭王以下ノ四王ハ。皆一統ノ後ニ在	
故國原王	百濟	蓋鹵王	高句麗	文周王	解仇	王ハ。皆一統ノ後ニ在	
安藏王	國人	泉蓋蘇文	文周王	榮留王	泉蓋蘇文	王ハ。皆一統ノ後ニ在	

君表		高句麗王世系	
惠恭王	宣德王	哀莊王	憲德王
景哀王	甄萱	信康王	閔哀王
合計	五	五	七
東城王 芍加リ。之ヲ世數年代ニ比較シテ考フレバ。亦以テ其國治亂ノ梗概ヲ想見ルベシ。			





朝鮮  
高麗  
新羅  
百濟

⑧ 烽上王相夫

咄固 — ⑤ 美川王乙弗 — ④ 故國原王釗

⑦ 小獸林王邱夫  
⑥ 故國壤王伊連

③ 廣開土王談德 — ⑦ 長壽王臣璉 — 助多 — ② 文咨王羅雲

⑫ 安藏王興安

⑭ 安原王寶延 — ⑭ 陽原王平成 — ③ 平原王陽成

② 嬰陽王元  
④ 榮留王建武  
⑦ 大陽 — ⑥ 寶藏王臧

百濟王世系

① 溫祚王 在位四五

② 多婁王 四九

③ 己婁王 五一

④ 蓋婁王 三八

⑤ 肖古王 四八 — ⑥ 仇首王 二九  
⑦ 古爾王 五二 — ⑧ 責稽王 十二

⑨ 汾西王 — ⑩ 契王

⑪ 比流王 四九

⑫ 近肖古王 二九

⑬ 近仇首王 九

⑭ 枕流王 一 — ⑮ 阿花王 十三  
⑯ 辰斯王 七

⑰ 直支王 十五

⑱ 久爾辛王 七

⑲ 毗有王 二六

⑳ 蓋鹵王餘慶 二二 — ㉑ 武寧王斯摩 三三  
㉒ 文周王 二 — ㉓ 三斤王 二  
㉔ 昆支 — ㉕ 東城王牟大 三三

㉖ 聖王明禮 三一

㉗ 威德王昌 四四

㉘ 惠王季明 一

㉙ 法王宣 一

㉚ 武王璋 四

㉛ 義慈王 二十



駕洛

第六章 駕洛任那及ビ耽羅

三國鼎立ノ時ニ當リテ。南方ニ國アリ。駕洛ト云フ。駕洛ハ初  
九干アリ。我刀、汝刀、彼刀、五刀、留天、神天、神鬼、五天。各其衆ヲ統ベテ酋長トナリ。

山野ニ聚居シテ君臣位號ナカリシガ。我紀元七百〇二年ニ

至リテ。金首露ト云ヘルモノアリ。龜峯ニ登リ。駕洛ノ九村ヲ

望ミ。遂ニ其地ニ至リテ國ヲ開キ。號シテ伽耶ト曰フ。慶尙道金海府。

日本紀ノ所謂伽羅ナリ。蓋駕洛伽耶加羅ハ。皆同語異譯ニシテ。金首露以前ニ駕洛ノ稱アリシニハ非ルベシ。後改

メテ金官トス。其他五人アリ。各五伽耶ノ主ト爲ル。阿羅伽耶

紀慶尙道咸安郡。日本古寧伽耶慶尙道咸昌縣。星山伽耶慶尙道星州。大伽耶

紀慶尙道高靈縣。日本小伽耶慶尙道固城縣。是ナリ。其地新羅ノ西南ニ

五伽耶

金首露國ヲ開キ號シテ伽耶ト曰フ

駕洛ハ太古弁韓ノ地

アリ。東ハ黃山江ニ抵リ。東北ハ伽耶山ニ至リ。西南ハ海ニ濱  
シ。西北ハ智異山ニ界ス。總稱シテ亦駕洛ト云フ。今ノ慶尙道  
ノ西南ニシテ。蓋太古弁韓ノ地ナリ。首露城郭ヲ築キ。宮室ヲ  
營ミ。時ニ出デ、新羅ノ南鄙ヲ襲ヒタリ。又音汁伐慶尙道安康。悉  
直谷江原道陟府。ト疆ヲ争ヒ。新羅ニ詣リ決センコトヲ請フ。新羅  
王之ヲ難ジテ。首露ヲ召シテ問フ。首露立ロニ之ヲ決セリ。因  
テ六部ニ命ジテ首露ヲ響ス。漢祗部微者ヲシテ之ヲ擯セシ  
ム。首露怒リテ部主深齊ヲ殺シテ歸レリ。居登立テ和ヲ新羅  
ニ請ヒ。其救援ニ頼リテ外寇ヲモ破リ。其子ヲ送リテ質トナ  
セリ。坐知ニ至リテ傭女ヲ嬖シ。其黨ヲ寵任セシニ因リテ國



大ニ亂ル。其臣朴元道之ヲ諫メ。又ト士アリ占筮ヲ以テ諭シ、カバ。坐知乃チ其女ヲ擯斥セリ。是時新羅ハ内亂ニ乗ジテ之ヲ伐ダンコトヲ謀リシガ。是ニ因リテ其禍ヲ免レタリ。其後仇衡三國遺事作仇衡。高麗史作仇亥。ハ婚ヲ新羅ニ結ビ好ヲ修メタリト雖。細故ニ因リテ新羅ノ怒ヲ招キ。頻ニ北境ヲ侵サレ。遂ニ自立スルコト能ハズシテ。我紀元一千一百九十三年ニ至リテ新羅ニ降ル。新羅ノ法興王待スルニ客禮ヲ以テシ。其國ヲ賜テ食邑トシ。金官郡ト爲ス。駕洛凡十王四百九十一年ニシテ亡ビタリ。

駕洛新羅ニ降ル

大伽耶又ハ任那ト云フ

大伽耶。又ハ任那ト云フ。其事蹟彼史ニ載スル所甚ダ詳カナ

ラズ。始祖伊珍阿歧王一云内智。ヨリ道設智王ニ至リ。凡十六世

五百二十年ニシテ。我紀元一千二百二十二年。新羅ノ眞興王

之ヲ滅ボシ。其地ヲ以テ大伽耶郡トナス。姓氏錄ニハ。任那國王ニ賀室王、爾利久

牟王、龍主王、佐利王、牟留知王、豐貴王、等ノ名見エタレドモ。其世次年代詳カナラズ。

大伽耶ハ。我崇神帝ノ時。蘇那曷叱知ヲ使トシテ鎮將ヲ乞フ。

帝鹽乘津彦ヲ遣シテ鎮守トス。又王子阿羅斯等モ我ニ來朝

セシガ。道ニ迷ヒテ。垂仁帝ノ時ニ至リテ始メテ謁見ス。帝其

國ニ還ラシメ。且國名ヲ改メテ任那ト曰フ。蓋阿羅斯等道ニ

迷ハズシテ至ラバ。先帝御間城天皇即崇神帝。ニ仕フベキヲ以テ

其御名ヲ負ハシメタリト云フ。神功皇后ノ時ニハ。國王ノ外。



更ニ日本府アリ。比ヒ自シ林ハ。慶尙道 昌寧縣南加羅蓋小伽耶。喙國其地未詳。安羅、多羅慶尙道 蔚山郡。卓淳慶尙道 金剛郡。加羅ノ七國皆之ニ屬ス。後益附近ノ小國ヲ并セ。總テ任那ト云フ。重臣常ニ駐劄シテ諸韓ノ事ヲ統制ス。然レドモ屢新羅ノ爲メニ侵サレテ。土地漸ク蹙マル。我繼體帝。近江毛野ヲ遣シテ新羅ニ諭シテ其侵地ヲ反サシム。毛野綏御ノ才ナク。其事成ラズ。又百濟ニ命ジテ興復ヲ圖ラシム。府帥河内直等。反リテ新羅ニ交通シテ與ニ力ヲ協セズ。國勢益衰フ。其後新羅ノ爲メニ滅ボサル、ニ及ビテハ。紀男麻呂、河邊瓊岳等ヲ遣シテ新羅ヲ討ジ。任那ヲ滅ボスノ罪ヲ問ヒ。之ヲ興復セントシタリシガ。終

ニ其功ヲ奏スルコト能ハザリキ。蓋駕洛ト云ヒ任那ト云ハ。皆一部落ヨリシテ。他ノ部落ヲモ併セテ總稱セシモノニテ。唯彼我稱呼ノ同ジカラザルノミ。其境域ニ至リテハ。大抵相異ナルコトナク。皆同種族ノ住居セシモノナレドモ。國力甚ダ微弱ニシテ。常ニ新羅百濟及ビ日本ノ諸國ニ牽制セラレ。後終ニ新羅ノ爲メニ併セラレテ。皆郡縣トナル。

耽羅ハ。南海中ニアリ。今ノ濟州嶋ナリ。相傳フ。良乙那、高乙那、夫乙那ノ三神人アリ。唯游獵シテ皮衣肉食セリ。時ニ日本國ノ使。三女子及ビ駒犢五穀ノ種ヲ送リテ至ル。因リテ各之ヲ



娶リ。始メテ五穀ヲ播シ駒犢ヲ牧シテ。日ニ富庶ニ就クト。然レドモ其年代詳カナラズ。百濟ノ文周王二年。方物ヲ獻ズ。王喜テ使者ヲ拜シテ恩率トス。是ヨリ百濟ニ臣屬シテ。佐平ヲ以テ官號トス。百濟ノ亡ブルニ及ビテ。其主佐平徒冬音律。新羅ニ降リテ屬國トナル。高麗新羅ニ代ルニ至リテ。亦之ニ敬事セシガ。其後終ニ版圖ニ入ル。

按ズルニ。金首露ハ後漢ノ建武十八年。我紀元七二年。龜峯ニ登リ。駕洛ノ九村ヲ望ミ。遂ニ其地ニ至リテ。國ヲ開キ。伽耶ト號スト曰フ。其漂流シテ他國ヨリ來リ。駕洛ノ地ニ占據セシモノ、如シ。其他五人ノ五伽耶ノ地ニ主トナルハ。皆首

印度ノ古言ニ伽耶ノ類多シ

露ニ隨從セシモノナルベシ。然レドモ舊史首露ハ何ノ所ノ人ナルヲ知ラズト云フ。今其國ヲ名ヅケテ伽耶ト云ヒ。其他ニモ伽耶、多羅等ノ名アルヲ見レバ。或ハ印度地方ヨリ來リシ者ニハ非ザル歟。之ヲ印度ノ古言ニ徵スルニ。象ヲ伽耶ト云ヒ。野干狐ノ類ヲ悉伽羅ト云ヒ。鯨ヲ摩伽羅ト云ヒ。鹹海ヲ娑伽羅ト云フ。山ニ伽耶山、柘迦羅アリ。木ニ多羅多迦羅アリ。人名ニ曇摩迦羅、波羅頗迦羅、釋迦彌多羅、舍利弗多羅アリ。而シテ地名ニ佛陀伽耶、伽耶城、僧伽羅今ノ錫蘭。那迦羅アリ。其他路伽耶毗伽羅、沙毗迦羅、補特伽羅等ノ言語。勝テ數フベカラズ。然レバ朝鮮ノ伽耶、多羅等ハ。蓋印度ノ



語ニシテ耽羅百濟ノ如キモ亦恐クハ其語源ヲ同ウセシ者ナルベシ。

又駕洛國記ニ曰ク東漢ノ建武二十四年金首露七年我紀元七百〇八年

駕洛ノ許皇后阿踰陀國印度ノ北部ニアリヨリ海ヲ渡リ

テ至ル望ミ見ルニ緋帆茜旗海ノ西南隅ヨリシテ北ヲ指

ス首露王宮ノ西ニ於テ幔殿ヲ設ケテ之ヲ候ス至ルニ及

ビテ迎ヘテ幔殿ニ入り輦ヲ同クシテ闕ニ還リ立テ、后

トス東國輿地勝覽ニ曰ク許皇后或ハ云フ南天竺國王ノ

女ナリト此二說ニ據レバ許氏ノ印度ヨリ來リシコト明

カナリ然レドモ阿踰陀ハ印度ノ北部ニアリテ摩揭陀近

駕洛ノ許皇后  
阿踰陀國ヨリ  
ザル

金首露ハ印度  
人ナルベシ

旁ナレバ上古ノ所謂中天竺ニシテ南天竺ニハ非ズ但古

代ノ傳說ニハ北ヲ南トシ西ヲ東トスルガ如キハ常ノコ

トナレバ怪ムニ足ラズ蓋金首露已ニ印度ヨリ來リ住ス

故ニ其夫人モ亦繼デ至リシモノナルベシ然ラバ首露ノ

印度人ナルコトハ益疑ナキ者ノ如シ。

抑當時印度ト支那トハ交通未ダ大ニ開ケザレバ印度人

ノ朝鮮へ來リシコトハ固ヨリ支那ノ陸地ヲ經過セシ者

ニハ非ズシテ印度ヨリ直ニ海ヲ渡リテ朝鮮ノ南部へ通

ゼシ者ニテ許氏ノ來リシ時海ヲ渡リテ海ノ西南隅ヨリ

シテ北ヲ指スト云ガ如キハ其航路ヲ證スルニ足ルベシ。



南部ト北部ト  
ハ其文化同シ  
カラザルコト  
アルベシ

是ニ由テ之ヲ觀レバ。駕洛地方。即チ朝鮮南部ノ開ケタル  
コトハ。夙ニ印度ノ風化ヲ蒙リタル者ニテ。高勾麗地方。即  
チ朝鮮北部ノ偏ニ支那文明ノ餘光ニ賴ル者ト。固ヨリ同  
ジカラザルコトアルベシ。此說前人ノ未ダ道破セザル所  
ニシテ。考證頗煩雜ニ涉ルノ恐アリ。將ニ他日ヲ俟テ之ヲ  
詳論セントス。故ニ今其大略ヲ述ブルコト此ノ如シ。

### 駕洛王世系

- 在位百五十七
- ①金首露
- ②居登
- ③麻品
- ④居叱彌
- ⑤伊尸品
- ⑥坐知
- ⑦吹希
- ⑧銓知
- ⑨鉗知
- ⑩仇衡

按ズルニ。金首露在位ノ年數ノ如キハ甚ダ疑ハシ。而シテ三國史記ニハ。  
又伽耶國嘉悉王アリ。南齊書ニハ。加羅王荷知ノ名モ見エタレバ。右ノ世  
系ノ中。必ズ誤謬アルベシ。然レドモ據リテ以テ之ヲ正スベキモノナシ。  
今姑ク舊史ニ從フ。

### 第七章 支那及ビ日本ノ關係

高勾麗ノ支那ニ於ルハ。其關係尤多シ。玄菟

漢ノ玄菟郡ハ。初  
咸鏡道咸興府ナ

今ノ盛京省興京近傍ナルベシト云フ。蓋

遼東等ノ地ハ。漢皆

太守ヲ置キテ之ヲ治メシメ。又薩水以南ハ。光武ノ時漢ニ屬

セシヨリ後。公孫度遼東ニ據リテ。樂浪ノ南界ヲ割キテ帶方

郡蓋今ノ黄海ヲ置キタレバ。高勾麗ハ三面皆漢ト疆域ヲ接

シタリ。是ヲ以テ其相攻ムルコトモ屢ニシテ。互ニ勝敗アリ

帶方郡  
高勾麗ハ三面  
皆漢ト疆域ヲ  
接ス



魏書卷之二十一

シガ。山上王ノ時。漢已ニ亡ビテ三國ノ世トナリ。東川王ノ時。魏ノ明帝。公孫氏ヲ平グルニ及ビテ。樂浪帶方ハ。皆魏ニ屬セリ。是ヨリ先キ。吳王孫權使ヲシテ和ヲ通ゼシム。王其使ヲ斬リテ首ヲ魏ニ傳ヘ。共ニ和親ヲ結ビタリシガ。其末年ニ至リテ。魏帝芳母丘儉幽州刺史ヲシテ劉茂樂浪太守。王遵朔方太守ト之ヲ侵サシム。王迎ヘ戰ヒテ之ヲ敗リ。勝ニ乘ジテ進ム。儉方陣ヲ爲シ。死ヲ決シテ戰ヒ。麗軍爲メニ大ニ潰エ。王出デ、南沃沮滿洲盛京ニ奔リ。密友ノ力ニ頼リテ纔ニ脱シ去ル。東部ノ人紐由詐リテ魏ノ軍ニ降り。其將ノ胸ヲ刺シテ俱ニ死ス。王其亂ル、ニ乘ジテ急ニ之ヲ擊チ。國ニ復ルコトヲ得タリ。然レドモ

魏晉ノ政令ハ東方ニ及バズ

丸都城平安道寧遠郡。亂ヲ經テ居ル可ラザルガ爲メニ。更ニ城ヲ平壤ニ築キテ都ヲ徙セリ。其後魏晉ノ政令ハ。東方ニ及バズシテ。樂浪帶方ハ。自ラ高句麗百濟ニ分屬スルニ至ル。烽上王ノ初ニ當リテ。晉政ヲ失ヒ。鮮卑轉盛ニシテ。慕容廆屢來リ侵シ、ガ。故國原王ノ時ニ至リテ。廆ノ子皝益強盛ニシテ。燕王ト稱シ。先高句麗ヲ取り。後ニ宇文氏ヲ滅ボサント欲シ。自ラ勁兵ヲ將井テ來リ攻ム。王之ヲ拒ギテ大ニ敗レ。單騎走リ出ヅ。皝美川王ノ墓ヲ發キ。王母ヲ囚ヘ。財寶ヲ收メ。男女ヲ虜シ。都城ヲ毀チテ還ル。王使ヲ遣シ。質ヲ納レ貢ヲ修メテ。其母ヲ請ヒ。之ト和セシガ。幾クモナクシテ。燕モ亦大ニ亂レテ。遂ニ



長壽王ハ好テ南北兩朝ニ結ブ

秦王符堅ノ爲メニ亡ボサル。慕容垂再ビ起ルニ及ビテ。故國壤王廣開土王ハ。皆兵ヲ出シテ邊境ヲ爭ヒシガ。大ニ國力ヲ疲スニ至ラズ。長壽王ノ時ニハ。其勢最強盛ニシテ。好テ南北兩朝ニ結ビ。其魏ニ朝貢スルコト尤屢ニシテ。魏ノ孝文帝モ。亦諸國ノ使邸ヲ置キテ。齊ヲ第一トシ。高勾麗之ニ次グニ至ル。其他宋齊梁陳ニ於ルガ如キモ。皆干戈ヲ用フルノコトナカリキ。

百濟新羅使チ支那ニ遣スノ始

百濟新羅ノ使ヲ支那ニ遣シテ方物ヲ貢セシコトハ。皆六朝ノ時ニアリ。百濟ハ近肖古王二十七年。即チ晋ノ簡文帝咸安二年。我紀元一千四年。新羅ハ奈勿王二十六年。即チ晋ノ孝武帝太

支那ノ封册ヲ受クルノ始

元七年。我紀元一千四年。ヲ以テ。史ニ見エタルノ始トス。然レドモ人民私ニ往來セシコトハ。其是ヨリ先ナルコト疑ナシ。支那ノ封册ヲ受ケシコトモ。高勾麗最其先ニ在リ。故國原王燕ト戰ヒテ大ニ敗レ。二十五年。使ヲ遣シ貢ヲ修ム。燕王儁王ヲ以テ征東大將軍營州刺史トシ。樂浪公ニ封ゼシヨリ。其後長壽王ノ位ニ即クヤ。晋ヨリ使ヲ遣シテ。高勾麗主樂浪郡公ニ封ジ。宋ハ王ヲ策シテ車騎將軍開府儀同三司トシ。齊ハ驃騎大將軍トセシ如キコト。歷世ノ恒例ナリ。百濟ハ。直支王十二年。晋ヨリ使持節都督百濟諸軍事鎮東將軍百濟王トセシヨリ。武寧王モ亦梁ヨリシテ持節都督百濟



諸軍事寧東大將軍ノ冊ヲ受ケタリ。是ヨリ後此ノ如キコト  
 屢ナリキ。文王二十六年。北齊ヨリ王ヲ册  
 新羅ノ封册ハ尤後ニシテ。眞興王二十六年。北齊ヨリ王ヲ册  
 シテ使持節東夷校尉樂浪郡公新羅王トセシヲ以テ權輿ト  
 ス。高句麗ノ封册ヲ受ケシヨリ。百濟ハ凡六十餘年。新羅ハ二  
 百餘年ノ後ニアリ。蓋其土地ノ遠近ニヨリテ。交際ノ道自ラ  
 先後親疎ノ別アルニ因リシナルベシ。  
 三國鼎立ノ末ニ當リテ。高句麗ハ。嬰陽王以來。屢隋唐ノ侵伐  
 ニ遭フト雖。皆ヨク之ヲ防禦セシガ。唐ノ高宗ノ時。百濟高句  
 麗漸ク衰亂シテ。遂ニ唐將ノ爲メニ滅ボサル。事既ニ第四章  
第五章ニ詳カ

高句麗ト日本  
トノ關係

ナリ。新羅統一ノ後ニ及ビテハ。常ニ唐ノ封爵ヲ受ケ。之ニ服事  
 スルコト益謹メリ。  
 支那ニ次ギテ其關係尤多キハ日本ナリ。高句麗廣開土王ノ  
 時ニ當リテ。日本ハ新羅百濟ヲ破リシニ因テ。王ハ之ヲ救ヒ  
 テ與ニ戰フ。日本紀應神帝七年ニ。高麗人ヲシテ韓人ノ池  
ヲ作ラシムト云ヘルハ。是時ノ捕虜ナルベシ。長  
 壽王ノ時使ヲ遣スト雖。日本其表文ノ無禮ナルヲ以テ納レ  
 ズ。其後遂ニ使聘ヲ通ジ。或ハ僧徒ヲシテ入朝セシム。寶藏王  
 ノ時我孝德  
帝ノ朝。ニ至リテ。朝貢尤屢ナリ。然レドモ其國北方ニア  
 リテ。日本ヲ距ルコト遠ケレバ。關係モ亦自ラ少ナクシテ。百  
 濟新羅ノ頻繁ナルガ如キニハ至ラザリキ。



百濟近肖古王  
始メテ日本ニ  
服屬ス

紀角等阿花ヲ  
立ツ

百濟ハ近肖古王ノ時。我神功皇后新羅ヲ征服セシヨリ。始メ  
テ日本ニ服屬シ。屢方物ヲ獻ジテ。朝貢絶エザリシガ。辰斯王  
ニ至リテハ其禮ヲ失ヘリ。故ニ應神帝紀角等ヲ遣シテ之ヲ  
責ム。國人王ヲ弑シテ謝ス。紀角等阿花ヲ立テ、王トス。阿花  
王亦朝貢セズ。因リテ東韓ノ地ヲ奪フ。是ヨリ王ハ太子直支  
ヲ遣シテ質ト爲シ。先王ノ好ヲ修ム。王薨ズルニ及ビテ。直支  
尙日本ニ在リ。太子ノ仲弟訓解。國政ヲ攝シテ太子ノ還ルヲ  
待ツ。季弟磔禮訓解ヲ殺シ。自立シテ王トナル。直支其計ヲ聞  
テ痛哭シテ歸ント請フ。應神帝兵ヲ以テ直支ヲ送ル。既ニ國  
界ニ至ル。解忠迎ヘテ謂ヒ曰ク。大王世ヲ棄テ。磔禮兄ヲ殺シ

百濟ノ亡ビザ  
ルハ日本ノ保  
護ニ賴ル

テ自立ス。願クハ太子早ク之ガ計ヲ爲セト。直支日本ノ兵ヲ  
以テ自ラ衛リ。海嶋ニ據リテ之ニ備フ。國人磔禮ヲ殺シ。迎ヘ  
立テ、王トス。其後蓋鹵王ハ。女ヲ送リテ婚ヲ爲シ。又其弟昆  
支君ヲ質トス。而シテ王ハ終ニ高勾麗ノ爲メニ殺サル。モ。  
社稷ノ亡ビザルハ。實ニ日本ノ保護ニ賴ルト云フ。三斤王薨  
ズルニ及ビテ。昆支君ノ第二子牟大。日本紀末多ニ作ル。日本ヨリ還ル。我  
雄略帝兵士ヲ以テ衛送セシム。位ニ即ク。是ヲ東城王トス。王  
暴虐ニシテ弑セラレ。初蓋鹵王ノ昆支君ヲ質トスルヤ。之ニ  
與フルニ其孕婦ヲ以テス。孕婦途ニシテ子ヲ生ム。斯摩ト云  
フ。日本紀嶋君ニ作ル。是ニ於テ斯摩位ヲ繼グ。是ヲ武寧王トス。武寧王



將相以下日本  
ニ歸化スル者  
多シ

以來ハ。數諸博士ヲ遣シテ交代セシメ。聖王威徳王ノ時ニ至  
リテ。任那安羅ハ。新羅ノ爲メニ侵サル、ヲ以テ。恒ニ日本ノ  
意ヲ承ケテ之ヲ興復セント欲シ。百方力ヲ盡サレタリ。又高  
勾麗新羅ト戰ヲ交フルニ及ビテ。屢救ヲ乞フ。我欽明帝紀男  
麻呂ヲシテ新羅ヲ伐チ。大伴狹手彦ヲシテ高勾麗ヲ伐タシ  
ム。是ヨリ使聘往來常ニ絶エズ。武王ハ又其子豊ヲ遣シテ質  
トナス。義慈王唐ノ爲メニ虜セラレ。社稷亡ブルニ及ビテ。福  
信等豊ヲ日本ニ迎ヘテ立テ、王ト爲シ。且救ヲ乞フ。我天智  
帝。阿曇比羅夫等ヲ遣シテ之ヲ救ハシメ。唐將劉仁軌ト白江  
口忠清道錦江ニ戰ヒ。終ニ敗績シ。豊高勾麗ニ奔ル。而シテ將

日本ノ使耽羅  
ニ漂着ス

耽羅歷日本ニ  
朝貢ス

相以下日本ニ歸化スル者頗多シ。蓋阿花王以來ハ。深ク日本  
ニ服從シ。日本亦使ヲ遣シ師ヲ出シテ之ヲ保護シ。王位ノ廢  
立ヲモ左右セシコトアリテ。其内政ニ關セシコト尤大ナリ  
ト云フベシ。  
百濟亡ブルノ明年。我紀元一千三百二十一年。日本ノ使津守吉祥。唐ヨリ  
還ルヤ。途暴風ニ遇ヒ。耽羅ニ漂着ス。耽羅王其至ルヲ悦ビ。遂  
ニ王子阿波岐ヲシテ之ヲ送り。且方物ヲ獻ゼシム。是ヨリ後  
凡四十年間。屢日本ニ朝貢セリ。蓋其國本百濟ニ屬シ。百濟ノ  
唐及ビ新羅ニ亡ボサル、ヤ。日本兵ヲ出シテ之ヲ救援ス。是  
ヲ以テ耽羅ハ新羅ニ臣タルヲ願ハズシテ。我ニ屬セント欲



セシ者ナルベシ。

新羅ノ日本ニ於ルハ。建國以來。交通既ニ開ケ。彼此互ニ移住

神功皇后新羅ヲ伐ツ

シ。鄒公昔脱解ノ日本ヨリ新羅ニ至リ。迎又邊郡ヲ擾サル、

コト屢ニシテ。日本ノ新羅ニ寇セシコトハ。往來頗頻繁ナリ

シガ。其後我神功皇后。大ニ兵ヲ舉ゲテ之ヲ攻ム。王力敵セズ

シテ服屬シ。未斯欣ヲ以テ質トシ。且毎歲調賦ヲ貢ス。後ニ使

者朴堤上ヲ遣シテ。誑キテ其質ヲ取り。堤上遂ニ焚殺セラレ。

神功皇后ノ征韓ハ。其何王ノ時ナリシヤ詳カナラズ。未斯欣ハ蓋我國史ノ徵叱許智ニシテ。其質子タルハ。必ズ此時ノ事

荒田別等七國ヲ平定ス

ナシ。是時百濟モ亦使ヲシテ日本ニ朝貢セシム。新羅其貢物ヲ奪フ。是ヲ以テ我將荒田別等。百濟ヲ帥并テ之ヲ伐チ。比自

炆等ノ七國ヲ平定ス。是ヨリ以來。屢朝貢ヲモ修メシガ。其闕

貢ヲ責ムルコト亦已マズ。或ハ兵ヲ用フルニ至ル。慈悲王ハ

我ヲ畏レテ援ヲ高勾麗ニ借ル。既ニシテ之ヲ疑ヒ。其兵ヲ殺

ス。高勾麗長壽王。師ヲ興シテ來リ攻ム。王救ヲ任那ニ乞フ。我

鎮將膳班鳩等之ヲ救フ。然レドモ未ダ好ヲ我ニ結ブニ至ラ

ズ。故ニ雄略帝。又紀小弓等ヲシテ之ヲ伐タシム。真興王ノ任

那ヲ滅ボスニ及ビテハ。大ニ罅隙ヲ開キ。我將紀男麻呂等ト

任那ニ戰フ。真平王ノ時。推古帝。又境部臣ヲシテ五城ヲ拔カ

シム。其干戈ヲ交フルコト此ノ如シト雖。朝貢スルコト尙怠

ラズ。而シテ真德女主元年。我孝德帝三年。金春秋ヲ以テ質トナシ



新羅屬調物ヲ  
日本ニ貢ス

シヨリ。武烈王ノ初ニ至ル迄。質子ヲ交代セシム。當時新羅ハ  
 頗強盛ニシテ。師ヲ唐ニ乞ヒ百濟ヲ并吞セント欲シ。日本ハ  
 又百濟ヲ救ヒテ新羅ヲ討ゼシガ。終ニ和好ニ歸シテ。統一ノ  
 後ニハ。屢調物ヲ貢シ。當時ノ調物ハ。金銀銅鐵刀旗綾羅絹  
布皮狗馬驢騾駱駝等ニシテ。別ニ皇后  
皇太子及ビ親王ニ。金銀綾  
羅等ヲ献ズル例ナリキ。使聘常ニ往來セリ。景德惠恭ノ時  
我聖武及ビ  
光仁ノ朝。ニ至リテ。日本ハ調ヲ土毛或ハ信物ト稱シ。朝ヲ  
 修好ト稱シ。舊章ニ非ルコトヲ責メテ之ヲ拒メリ。是ヨリ使  
 節來往稍ク疎ニシテ。國家ノ交際ハ絶エタリ。然レバ其初ノ  
 朝貢ト稱セシ者ハ。對等ノ禮ヲ用ヒザリシコト明カナリ。其  
 後張保臯甄萱ノ徒。使ヲ遣スコトアリシト雖。亦皆之ヲ受ケ



三 國 地 圖



第三圖

朝貢ト稱セシ者ハ對等ノ禮ヲ用ヒザリシコト明カナリ。其  
 後張保臯甄萱ノ徒使ヲ遣スコトアリシト雖亦皆之ヲ受ケ



ザリキ。

第八章 新羅ノ統一

新羅既ニ唐トカヲ併セテ百濟高句麗ヲ滅ボス。唐皆其地ヲ分チテ都督等ノ官ヲ置キテ治メタリシガ。新羅漸ク百濟ノ地ヲ取リテ之ヲ有シ。又高句麗ノ叛衆ヲ納ル。唐屢之ヲ責メテ已マズ。新羅モ亦服セズシテ。遂ニ兵ヲ接フルニ至ル。是ヲ以テ唐怒リテ王ノ爵ヲ削リ。劉仁軌ヲシテ來リ討タシム。王乃チ使ヲ遣シテ其罪ヲ謝ス。然レドモ終ニ高句麗ノ南境ニ至ル迄ヲ州郡トセリ。蓋武烈文武ノ時ニ當リテ。金庾信之ヲ輔翼シ。忠ヲ盡シカヲ竭シ。唐及ビ百濟高句麗ノ間ニ周旋シ

新羅唐ト兵ヲ接フ

金庾信



人和

テ。ヨク統一ノ業ヲ成シ。芻童牧豎ニ至ルマデ。亦皆其功ヲ稱誦セザル者ナカリキ。  
抑高勾麗百濟ハ。其國ヲ立ルコト新羅ニ後レ。而シテ其亡ブルコト之ニ先チ。新羅獨存シテ。其後尙二百六十餘年ノ國脉ヲ保ツモノハ何ゾヤ。土地ノ廣狹ヲ以テスレバ。高勾麗百濟ハ皆大ニシテ。新羅ハ殆ド其半ニ居レリ。甲兵ノ衆寡ヲ較ブルモ。亦必ズ二國ニ及バザルナリ。故ニ侵凌ノ禍ヲ蒙ルコト虚日ナシ。然リト雖之ヲ二國ニ比シテ勝ル者アリ。曰ク人和ナリ。曰ク地利ナリ。新羅ハ其君仁ニシテ民ヲ愛シ。其臣忠ニシテ國ニ事フ。其法戰死ノ人ハ。厚ク之ヲ葬リテ。爵賞ノ賚ハ。

王事ニ死スル者衆シ

地利

一族ニ及ブ。是故ニ人皆忠信ヲ重ンジ。節義ヲ崇ビ。戰ニ臨ミテハ。進死ヲ榮トシ。退生ヲ辱トス。百濟ノ亡ブルヤ。惟階伯アリ。高勾麗ノ亡ブルヤ。一人ノ節ニ死スル者ナシ。新羅ハ麗濟兵ヲ構ヘテヨリ。王事ニ死スル者。數フルニ違アラズ。  
貴山、節項、讚德  
父子、奚論、訥催、東所、竹々、丕寧、子父子、金欽、運穢、破、狄、得、寶、用、那、盤、屈、官、昌、匹、夫、阿、珍、金、素、那、金、令、胤、驟、徒、夫、果、脫、起、仙、伯、悉、毛、ノ、徒、ハ、皆、死、節、ノ、者、ナ、リ、シ、是、二、國、ノ、決、シ、テ、及、バ、ザ、ル、所、ナ、リ、テ、尤、章、々、タ、ル、者、ナ、リ、シ、

又其地利ヲ論ゼンカ。新羅ハ今ノ慶尙道ニシテ。氣候溫和。土地肥沃ナリ。高勾麗瘠薄寒冷ノ比ニ非ズ。又百濟ノ如ク水旱ノ患ナシ。而シテ其國境ニハ山岳重疊シテ。外寇ヲ防禦スルニ於テ。甚ダ便ナリ。且其地勢ノ支那ニ於ル。二國ヲ以テ藩屏



唐涇江以南ノ地ヲ賜フ  
九州ヲ置キ郡縣ヲ定メ官號ヲ改ム

ト爲シ、者ノ如クニシテ。其凌壓ヲ受クルコト亦尠シ。是強大ナル者先亡ビテ。弱小ナル者反リテ存スル所以ナルベシ。然レドモ神文王以後ニ至リテハ。稍ク驕侈ノ念ヲ生ゼシガ。聖徳王ハ窮民ヲ巡撫シ。其唐ニ事フルコト尤謹ムニ因リテ。唐涇江江大同以南ノ地ヲ賜フ。此時國號ヲ王城國ト改ム。既ニシテ其舊ニ復ス。景德王ハ心ヲ民事ニ用ヒ。人言ヲ容納シ。九州ヲ置キ。郡縣ヲ定メ。又官號ヲモ改メテ。制度頗一新セリ。是ヲ以テ叛賊時ニ起リ。稍衰微ノ兆ナキニ非ズト雖。綱紀尙存シテ。未ダ亂ル、ニ至ラザルナリ。

州	名	小京郡	數	縣	數	舊	名
---	---	-----	---	---	---	---	---

尙州	良州	康州	漢州	朔州	溟州	熊州	全州	武州
一	一	一	一	一	一	一	一	一
十	十二	十一	二十七	十一	九	十三	十	十四
三十	三十四	二十七	四十六	二十七	二十五	二十九	三十一	四十四
沙伐州	歙良州	菁州	漢山州	首若州	西州	熊川州	完山州	武珍州

第九章 新羅ノ衰亡



景德王薨シテ。子惠恭王立ツ。是時ニ當リテ。叛者更興ル。大廉、

金融、金隱居、廉相、正門、金志貞、上大等金良相。伊殮金敬信ト俱ニ兵ヲ擧ゲテ

叛賊金志貞ヲ討ジ。遂ニ王ヲ弒シテ自立ス。之ヲ宣德王ト云

フ。敬信ヲ以テ上大等トス。王ノ薨ズルニ及ビテ嗣ナシ。群臣

王ノ族子周元ヲ立ントシテ果サズ。敬信遂ニ位ニ即ク。元聖

王是ナリ。時ニ飢疫蝗旱。民其生ヲ聊セズ。憲德王ノ哀莊王ヲ

弒シテ立ツニ至リテ。飢饉益甚シク。周元ノ子憲昌ハ。又其父

ノ立ツヲ得ザリシヲ以テ兵ヲ起シ、ガ忽ニシテ亡ビタリ。

興德王之ニ繼ギテ。窮ヲ恤ミ。孝ヲ賞シ。稍稱スベキ者アリ。然

レドモ其薨ズルヤ。堂弟均貞。及ビ堂弟憲貞ノ子悌隆。立ツヲ

金良相王ヲ弒シテ自立ス

金明王ヲ弒シテ自立ス

争ヒ。金陽ハ均貞ノ子祐徵等ト均貞ヲ奉ジテ王ト爲シ。族兵

ヲ以テ宿衛ス。悌隆ノ黨金明等來リ圍ム。陽圍ヲ突キテ出ヅ。

均貞遂ニ害ニ遇フ。明等乃チ悌隆ヲ立ツ。是ヲ僖康王トス。祐

徵禍ヲ懼レテ。清海鎮全羅道 莞嶋ノ大使張保臯ニ依ル。金陽亦兵

士ヲ募集シテ清海鎮ニ入り。祐徵ヲ見テ事ヲ舉ゲンコトヲ

謀ル。已ニシテ金明王ヲ弒シテ自立ス。是ニ於テ金陽祐徵ヲ

奉ジテ兵ヲ清海鎮ニ起シ。金明ヲ討ズ。張保臯兵五千ヲ以テ

其友鄭年ニ授ケテ之ヲ助ケシム。陽等晝夜兼行シテ達伐丘

慶尙道 大丘 縣ニアリ。ニ至ル。金明兵ヲ遣シテ之ヲ拒ガシム。一戦シテ

大ニ克チ。進ミテ明ヲ斬リ。乃チ閔哀ト諡シ。祐徵ヲ立ツ。是ヲ



神武王トス。國勢是ニ至リテ危クシテ復振ヘリ。文聖、景文、憲

康、諸王ノ時ニ至リテ。叛者文聖王ノ時。允興、叔興、金銳、金鉉、近宗。

憲康王ノ時。弘。屢起ルト雖。皆速ニ誅セラレテ。稍平康ナリシカバ。

當時ノ君臣。皆優游玩愒シテ。琴瑟詩賦ヲ以テ相樂ミ。互ニ相

稱譽シテ晏然自肆ニシ警戒スル所ナク。其外部ハ頗盛ナル

ガ如シト雖。内部ハ已ニ腐敗セリ。定康王位ヲ女弟眞聖ニ傳

フルニ及ビテ。女主恣ニ淫穢ヲ行ヒ。佞幸志ヲ得テ綱紀壞弛

シ。時政ヲ譏謗スル者ハ之ヲ獄ニ下シ。盜賊蜂起シテ。州郡貢

賦ヲ輸サズ。國用益窮乏シテ。新羅ノ衰亂是ニ於テ極マレリ。

孝恭王ニ至リテ。疆場日ニ蹙リテ。力禦グ能ハザルヲ患ヒテ。

新羅ノ衰亂極ル

高麗ノ王建王ト稱ス

甄萱景哀王ヲ弑シ敬順王ヲ立ツ

諸城ニ命ジテ壁ヲ堅クシテ戰フコトナカラシメ。其勢益微

ニシテ振ハズ。景明王二年。我紀元一千五百七十八年。高麗ノ王建。既ニ弓裔

ニ代リテ王ト稱シ。國勢益盛ナリ。王使ヲ遣シテ之ニ聘シ。殆

ド對等ノ禮ヲ用フルニ至ル。景哀王ノ時。後百濟ノ甄萱。猝ニ

王都ニ入ル。時ニ王出デ、鮑石亭ニ遊ビテ置酒娛樂ス。忽チ

兵ノ至ルヲ聞テ。倉卒爲ス所ヲ知ラズ。王夫人ト走リテ城南

ノ離宮ニ匿レ。侍從臣僚宮人伶官皆陷沒セララル。萱王ヲ索メ

テ自盡セシメ。強テ王妃ヲ辱カシメ。王ノ族弟金傅ヲ立テ、

王トシ。王ノ弟孝廉、宰臣英景ヲ虜ニシ。盡ク子女百工兵仗珍

寶ヲ取リテ歸ル。高麗王之ヲ聞キテ。使ヲ遣シテ弔祭セシム。



傳位ニ即ク。是ヲ敬順王トス。王四方ノ土地盡ク他ノ有ト爲  
 リ。國弱ク勢孤ニシテ自ラ安ンズルコト能ハザルヲ以テ。高  
 麗ニ降ランコトヲ謀ル。王子獨不可トシテ曰ク。當ニ忠臣義  
 士ト民心ヲ收合シテ死ヲ以テ守ルベシト。王聽カズ。終ニ書  
 ヲ齎シテ降ヲ高麗ニ請ハシム。高麗王降書ヲ受ケテ。使ヲシ  
 テ報ゼシム。王百僚ヲ率井テ王都ヲ發シ。香車寶馬。連亘スル  
 コト三十里。開京京畿道開城府ニ入ル。高麗王郊ニ出デ、迎ヘ勞シ。  
 柳花宮ニ館シ。妻ハスニ長女樂浪公主ヲ以テシ。庭見ノ禮ヲ  
 行ヒ。封ジテ樂浪王トシ。新羅國ヲ除キテ慶州トシ。賜テ食邑  
 トス。始祖赫居世ヨリ是ニ至リテ。朴氏十王。昔氏八王。金氏三

敬順王高麗ニ  
降リ新羅亡ア

新羅ノ世ヲ分  
チテ三代トス

十八王。合セテ五十六王。凡九百九十二年ニシテ亡ブ。文武王  
 ノ時。高句麗百濟ヲ亡ボシテ統一セシヨリ二百六十八年ニ  
 シテ。我紀元一千五百九十五年ナリ。國人モト新羅ノ世ヲ分  
 チテ三代トス。始祖ヨリ眞德女主ニ至ル迄二十八王ヲ上代  
 ト云ヒ。武烈王ヨリ惠恭王ニ至ル迄八王ヲ中代ト云ヒ。宣德  
 王ヨリ敬順王ニ至ル迄二十王ヲ下代ト云フ。蓋國運ノ昇降。  
 政治ノ盛衰。其界限大略此ノ如クナルベシ。

新羅王世系





朝鮮  
高麗  
史記

昔脫解

仇鄒 伐休

骨正 助賁 儒禮 乞叔 基臨 伊買 奈解 于老 訖解

金味鄒

未仇 奈勿

訥祇

慈悲

炤智

智證王智大路

法興王原宗

實聖 某

習寶

智證王智大路

立宗

真興王多麥宗

銅輪

真平王伯淨

善德女主德曼

國飯

真德女主勝曼

真智王金輪

文興王

武烈王春秋

文武王法敏 神文王政明 孝昭王理洪 孝成王承慶 惠恭王乾運 宣德王良相 元聖王敬信 景德王憲英

仁謙 昭聖王俊邕 哀莊王重熙 憲德王彥昇 興德王景徽 忠恭 閔哀王明 憲貞 僖康王悌隆 啓明 景文王膺廉 禮英 均貞 憲安王誼清 神武王祐徵 文聖王慶膺



朝  
録  
卷之十一

①<sup>十二</sup> 憲康王暉  
②<sup>十五</sup> 孝恭王曉  
③<sup>十</sup> 定康王晃  
④<sup>十</sup> 眞聖女王曼

⑤<sup>五</sup> 神德王景暉 阿達羅遠孫  
⑥<sup>七</sup> 景明王昇英  
⑦<sup>三</sup> 景哀王魏膺

⑧<sup>九</sup> 敬順王傅 文聖王五世孫

第十章 泰封及ビ後百濟

眞聖女王ノ時ニ當リテ。群雄隙ニ投ジテ起ルコト蝟毛ノ如シ。而シテ其最大ナル者ハ。弓裔甄萱ナリ。弓裔ハ憲康王ノ庶子ニシテ。初祝髮シテ僧トナリ。戒律ニ拘檢セズ。頗膽氣アリ。常ニ己ガ國ニ棄テラレタルヲ怨ミ。高勾麗ノ爲メニ讎ヲ復

弓裔

セントシ。國家ノ衰亂ニ乘ジテ。其志ヲ遂ゲンコトヲ思ヒ。北

原<sup>江原道</sup>ノ賊梁吉ニ投ジテ地ヲ略セシガ。其後自ラ將軍ト

稱シ。軍聲甚盛ナリシカバ。始メテ内外ノ官職ヲ設ケ。王建及

ビ其父隆皆之ニ歸セリ。孝恭王五年<sup>我紀元一千五百二十一年</sup>至リテ。

自ラ王ト稱シ。遂ニ國號ヲ立テ、摩震ト曰ヒ。元ヲ紀シ。百官

ヲ設ケテ。都ヲ鐵圓<sup>江原道鐵原府</sup>ニ定ム。諸州風ヲ望ミテ來リ降り。

士馬漸ク強ク。土地益廣クシテ。殆ド全國三分ノ二ヲ有セリ。

後又國號ヲ泰封ト改メ。自ラ彌勒佛ト稱シ。頭ニ金幘ヲ戴キ。

身ニ方袍ヲ披キ。出ヅル時ハ常ニ白馬ニ騎リ。綵ヲ以テ其鬃

尾ヲ飾リ。童男女ヲシテ幡蓋香火ヲ奉ジテ前道セシメ。比丘

弓裔王ト稱シ  
國號ヲ立ツ

泰封



二百餘人ニ命ジテ。梵唄シテ後ニ隨ハシム。又經二十餘卷ヲ述ブ。其言皆妖妄不經ナリ。其妻康氏非法ヲ行フヲ諫ム。乃チ之ヲ虐殺シ。驕暴日ニ甚シ。王建初ヨリ裔ノ爲メニ信用セラレ。屢諸州ヲ伐テテ功勞アリ。身百僚ニ冠タリト雖。禍ノ及バシコトヲ懼レテ。位ニ居ルコトヲ樂マズ。惟情ヲ抑ヘテ謹慎ニシテ。務メテ人心ヲ收ム。其臣相謀リテ建ヲ推戴シテ王トナシ。國ヲ高麗ト號ス。裔變ヲ聞キテ驚駭シ。岩谷ニ逃レ。遂ニ斧壤江原道平康縣ノ民ノ爲メニ害セララル。王ト稱セシヨリ是ニ至リテ。凡十七年ニシテ亡ビタリ。

甄萱

甄萱ハ本尙州農家ノ子ニシテ。志氣倜儻智略アリ。新羅ノ末。

泰封亡ア

甄萱王トナリ後百濟ト稱ス

綱紀紊弛シテ。盜賊並ビ起ルヲ以テ。潛ニ亡命ヲ嘯聚ス。西南ノ州縣至ル所響應シテ。旬月ノ間衆五千ニ至リ。武珍州全羅道ヲ襲ヒ。自立シテ王トナル。時ニ眞聖女主六年我紀元一千五百五十二年ナリ。遂ニ都ヲ完山全羅道全州ニ定メテ。後百濟ト稱シ。官ヲ設ケ職ヲ分チ。使ヲ吳越支那浙江西省。時ニ錢鏐吳越ニ據リテ王ト稱ス。及ビ後唐ニ遣シテ封爵ヲ受ケ。又高麗ノ興リシヨリ好ヲ結ビシガ。萱ノ新羅ヲ攻メシ時。新羅援ヲ高麗ニ求メテ之ヲ拒ギシニ因リテ始メテ隙アリ。兵ヲ出シテ與ニ戰フ。然レドモ萱終ニ和ヲ乞ヒ互ニ質ヲ交ヘタリ。既ニシテ萱ノ外甥眞虎質トシテ高麗ニ在リ。病ミテ死ス。萱其殺サル、ヲ疑ヒ。質子王信ヲ殺シテ



甄萱高麗ヲ侵ス

屢高麗ヲ侵シ。又進ミテ新羅ノ高鬱府慶尙道永川郡ヲ襲ヒ。猝ニ王都ニ入り。景哀王ヲ弒シ。其族弟金傅ヲ立テ、王トス。高麗王親ヲ精騎ヲ率井テ。萱ト公山桐藪慶尙道慶山縣在リニ戰ヒテ敗績シ。大將申崇謙、金樂之ニ死ス。其後萱書ヲ貽リテ和ヲ求ム。高麗亦書ヲ爲リテ之ニ報ジ。萱ガ約ニ背キ王ヲ弒スルノ罪ヲ責メテ聽カズ。是ヲ以テ萱又屢高麗ヲ侵シ。高麗ノ將帥或ハ降り或ハ死セシガ。其古昌郡慶尙道安東府ヲ圍ムヤ。高麗王庚黔弼ガ計ニ從ヒ。軍ヲ進メテ急ニ戰ヒ。萱大ニ敗走セリ。是ヨリ郡縣相次テ高麗ニ降ル者益衆シ。萱初メ四子金剛ヲ愛シ位ヲ傳ヘントス。是ヲ以テ長子神劍。伊粲能奐ト謀リテ。其父ヲ金

山慶尙道金山郡ノ佛寺ニ幽シ。弟金剛ヲ殺シテ自立ス。萱潛ニ逃レ

テ高麗ニ奔ル。高麗王待スルニ厚禮ヲ以テシ。號シテ尙父ト

シ。之ニ食邑ヲ賜フ。萱頻ニ神劍ヲ討ゼンコトヲ請フ。王乃チ

親ヲ三軍ヲ率井テ之ヲ攻メ。進ミテ一善慶尙道善山府ニ次ス。神劍

之ヲ迎ヘテ大ニ敗レ。遂ニ降ル。高麗王能奐ヲ責メテ之ヲ誅

シ。特ニ神劍ヲ免ス。後百濟是ニ於テ亡ブ。甄萱自立セシヨリ

凡四十五年ニシテ。新羅ノ亡ブルニ後ル、コト一年ナリ

第十一章 渤海

新羅統一ノ後。北方ニ國ヲ立ルモノアリ。渤海ト曰フ。渤海ハ

本粟末靺鞨靺鞨ノ部落粟末河ニ依リテ居ル者ニシテ。粟末河ハ今ノ松花江ナリ。ニシテ。高勾

後百濟亡



大祚榮震國王  
ト號ス

始メテ渤海ト  
稱ス

麗ノ北ニアリ。上古ノ初ヨリ屢三國ヲ侵凌セシコトアリシ  
 ガ。高勾麗ノ亡ブルニ及ビテ。餘衆稍ク之ニ歸シテ。遂ニ其地  
 ヲ并セ。我紀元一千三百七十三年新羅聖德王十二年ニ至リテ。其酋祚榮。  
 姓ハ大氏。自ラ震國王ト號シ。國勢益盛ナリシカバ。唐ノ睿宗。  
 祚榮ヲ拜シテ左驍衛大將軍渤海郡王トス。是ヨリ始メテ靺  
 鞨ノ號ヲ去リ。專ラ渤海ト稱シタリ。其後武藝仁秀ノ如キハ。  
 益境宇ヲ開キ。其地南ハ新羅ニ接シ。東ハ海ヲ窮メ。西ハ契丹  
 ニシテ。五京十五府六十二州アリ。肅慎、穢貊、沃沮、高勾麗、扶餘、  
 挹婁、率賓、拂涅、鐵利、越喜ノ故地ヲ并有シ。大抵今ノ平安道、咸鏡ノ西境。及ビ滿洲  
盛京吉林ノ二又諸生ヲ唐ニ遣シテ。文物制度ヲ學バシメ。政

渤海ノ官制

日本ニ來聘ス

契丹ノ阿保機  
與ル

府ノ組織ハ。大抵唐制ヲ模擬シテ。官ニ宣詔省、中臺省、政堂省  
 アリテ。左右相、左右平章、侍中、常侍、諫議アリ。又左ノ六司忠仁  
 義部。右ノ六司智禮信部アリテ。各郎中員外アリ。武官ニハ左  
 右衛大將軍ノ屬アリ。其服章ニモ。亦紫緋淺緋綠及ビ牙笏金  
 銀魚ノ制アリト云フ。  
 武藝又我紀元一千三百八十七年聖武帝神龜四年寧遠將軍高仁義  
 ヲシテ日本ニ來聘セシメシヨリ以來。屢使ヲ遣シテ。方物ヲ  
 貢シ。恭順ノ禮ヲ修メ。我亦之ニ報聘シテ。來往常ニ絶ユルコ  
 トナカリキ。

是時契丹ノ太祖阿保機。西北方

支那直隸省承德府。及ビ內蒙古東部。

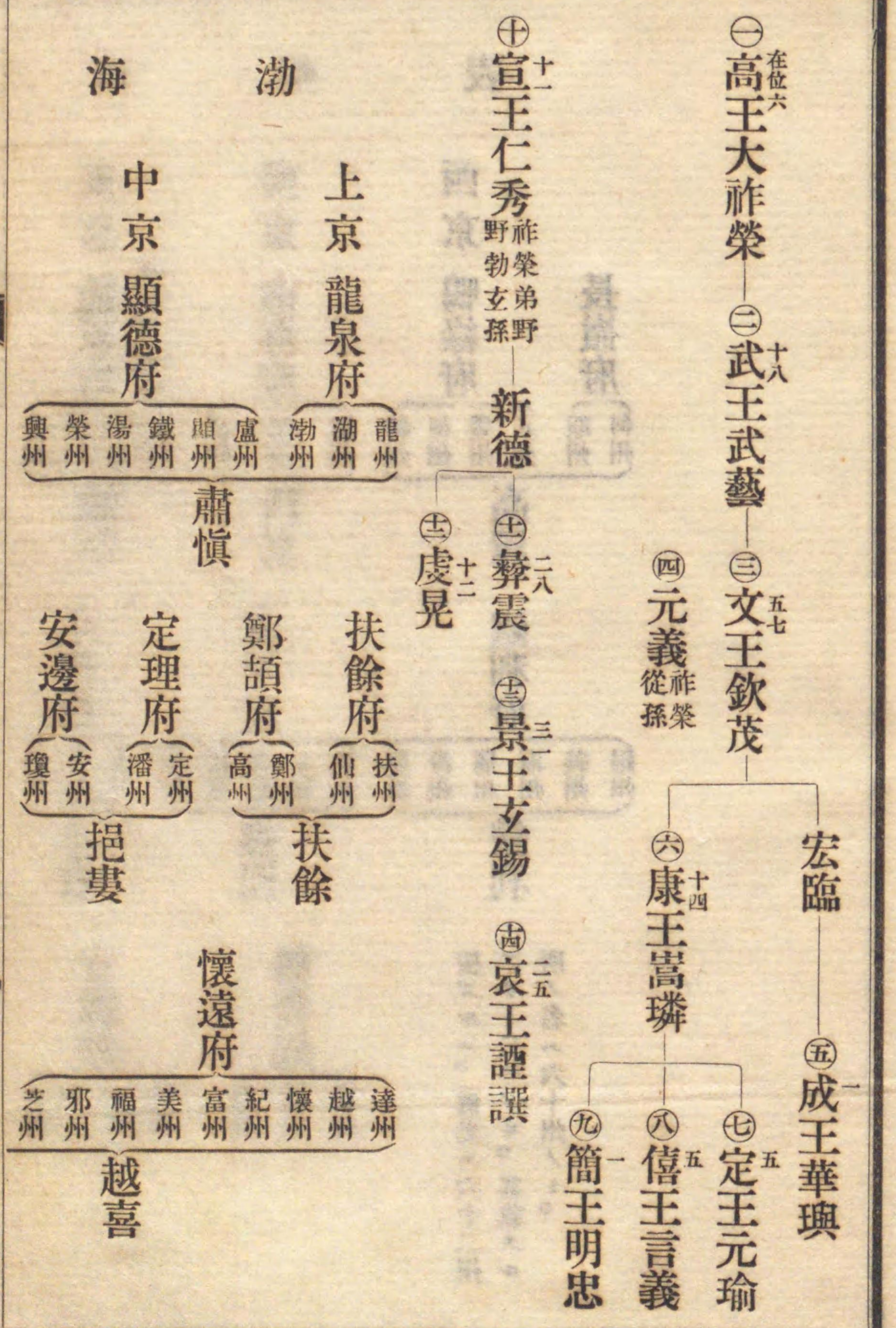
ニ興リ。我



紀元一千五百七十六年新羅神德王五年。自ラ天皇王ト號シ。勢頗強盛ニシテ。四方ヲ并吞スルノ志アリシガ。一千五百八十六年。新羅景哀王三年。諸部ノ兵ヲ率并テ。扶餘城ヲ拔キ。其守將ヲ殺シ。進ミテ忽汗城滿洲吉林ニアリヲ圍ム。渤海王大謹讓。戰敗レテ。遂ニ降ル。阿保機乃チ渤海ヲ改メテ東丹國トシ。其子突欲ヲ人皇王トシテ之ヲ鎮メシム。祚榮ノ王ト稱セシヨリ。凡十四王二百十四年ニシテ渤海亡ビタリ。是ニ於テ其世子大光顯及ビ將軍申德、禮部卿大和鈞等。其餘衆ヲ率并テ。前後高麗ニ奔ル者數萬戸ナリト云フ。

渤海王世系

渤海亡ア





朝鮮  
魚  
史  
卷  
之

府

東京龍原府

亦曰柵城府

慶州 鹽州 穆州 賀州

滅貂

率賓府

華州 益州 建州

率賓

安遠府

寧州 鄆州 慕州 常州

州

南京南海府

土京

沃州 晴州 椒州

沃沮

東平府

伊州 蒙州 沱州 黑州 比州

拂涅

獨奏州

鄆州 銅州 涑州

表

西京鴨綠府

長嶺府

何州 瑗州

神州 桓州 豐州 正州

高麗

鐵利府

廣州 汾州 蒲州 海州 義州 歸州

鐵利

按ズルニ。舊史ニ六十二州  
アリト云ヘドモ。其載スル  
所ノ名ハ六十州ノミ。







9289

6

14562



